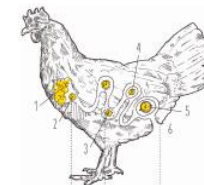




農業生産法人
黒富士農場

農場概要



農業生産法人 黒富士農場

所在地：山梨県甲斐市上芦沢1316

TEL:055-277-0211 fax:055-277-0298

生産規模：17ha :18鶏舎（内平飼16棟）

飼養羽数：約5.5万羽（ハケ岳5千羽）

常時雇用者：約30名:臨時雇用者55名

事業内容

1. 鶏卵の生産および販売
2. 直営店運営
3. 放牧鶏の加工企画販売
4. 鶏卵の製造企画・販売
5. 堆肥の生産及び販売
6. 野の学校の運営
7. 平飼い普及支援事業
8. マーケット・フェスタなど

主な出荷先

●生協・宅配

コープデリ生活協同組合連合会、パルシステム生活協同組合連合会、生活クラブ関西、生活クラブ山梨、コープ自然派、オアシス・ラ・大地、ビオ・マーケット

●流通・小売り

JA全農たまご（株）、紀伊國屋、クイーンズ伊勢丹、銀座松屋、松坂屋、明治屋、小田急OX、東急ストア、京王ストア、阪急オアシス、成城石井、サミット、マルエツ、イトーヨーカ堂、イオンリテール、ビオセボンジャパン、ライフ、シェルガーデン、北野クリエーション、いなげや、ムソー、カネスエ、日進ワールドデリカテッセン、ナニワヤ、（株）ハローディ、西友、F&F、静鉄ストア、ビオラル、ナリタヤ、こだわりや、ナチュラルハーモニー、他

●飲食・加工

Chateraise、Eggcellent、laTerre、ロブション、Armaniレストラン、ベイクルーズ、Darcy's、池伝（株）、東京中央鳥卵、

●ホテル 八芳園、ホテルオークラ、フォーシーズンズ、エディション虎ノ門、Hyatt/富士スピードウェイホテル、マンダリンオリエンタル東京、ヒルトンホテル、ブルガリホテル、マリオット東京、星のや東京

※全ての店舗および地域での取り扱いではありませんのでご注意ください

沿革

- 1950年 向山農場（塩山市）採卵養鶏が始まる
- 1984年 農業生産法人黒富士農場の設立
- 1987年 BMW農法を導入
- 1990年 (株)山梨自然学研究所設立(堆肥活用と果樹販売)
- 1991年 フリーレンジ式（平飼い放牧）飼養開始
- 1991年 三井農林との業務提携（茶葉含有堆肥生産協定）
- 1995年 たまご村塩山店OPEN
- 1998年 たまご村敷島店OPEN
- 2003年 たまご村甲府店内ケーキ工房「イラト ユツ」OPEN
- 2006年 山梨大学との共同研究開始（藻類バイオマス研究）
- 2007年 有機JAS認証取得
- 2009年 たまご村敷島店内ケーキ工房「イラト ユツ」OPEN
- 2012年 やまなし自然塾若手会設立
- 2013年 野の学校 Nache の運営開始
- 2014年 日本農業賞大賞受賞
内閣総理大臣賞受賞
- 2016年 役員交代
- 2019年 山梨県県政功労者表彰
- 2019年 ハケ岳中央農業実践大学校業務提携
- 2021年 旭日双光章受賞



自然と共生する持続可能な畜産

「人も動物も満たされて生きる」

- ・有機畜産を実践することで、消費者に安全な食品を提供し、有機食品を販売する事で普及を目指しています
- ・循環型農業を実践する事で環境保全を行い、自然と共生する持続可能な畜産を目指します。
- ・鶏たちを満足度の高い状態で飼養する事で、質の高い「ウェルフェア食品」を生産します。



有機畜産



自然循環



動物福祉





環境保全型自然循環農法

BMW技術を基礎とした自然循環農法を実践し、農場内の生物および微生物と共存しながら環境の健全化を図っています。

生態系への影響に対する配慮は欠かさず、農場で排出される堆肥等は全て地域循環し、環境を汚さない畜産を心がけています。鶏たちの飲み水になっている天然の湧き水も、環境汚染のない事で受ける事が出来る自然の恩恵です。



遺伝子組み換え分別管理

黒富士農場では、鶏の食べる飼料は遺伝子組み換え混入防止のため、分別流通生産管理された飼料を使用しています。遺伝子組み換えおよびゲノム編集された飼料は極力使用はしないことを社のポリシーにしています。

環境保全の観点からはエコフィード（未利用資源）を積極的に活用していますが、遺伝子組み換えの混入に関しては同様に防止策を実施しております。



黒富士農場の卵



リアルオーガニック卵

日本で初めてのオーガニック卵です。
採卵鶏での有機JAS取得は非常に難しく、
鶏の食べるもの、飲むもの、暮らす場所、
全てにおいて厳しい基準が設けられてい
ます。



さくら卵

純国産鶏（ゴトウさくら）が産んだ卵で
す。主に生活クラブ様向けに作っている
卵なので、安全基準がととも高く、濃厚
で臭みがないのも特徴です。



平飼い放牧卵

「美味しい卵は健康で元気な鶏から」
そんな想いで育てている、黒富士農場の
代名詞と言える卵です。飼料から飼い方
まで沢山のこだわりが詰まった卵です。



ハーブ放牧卵

放牧飼育に加え、6種類のハーブ（パセリ、
オレガノ、ターメリック、バジル、ニン
ニク、桑の葉）を与え、抗酸化活性など
の機能性を向上させた卵です。



八ヶ岳山麓卵

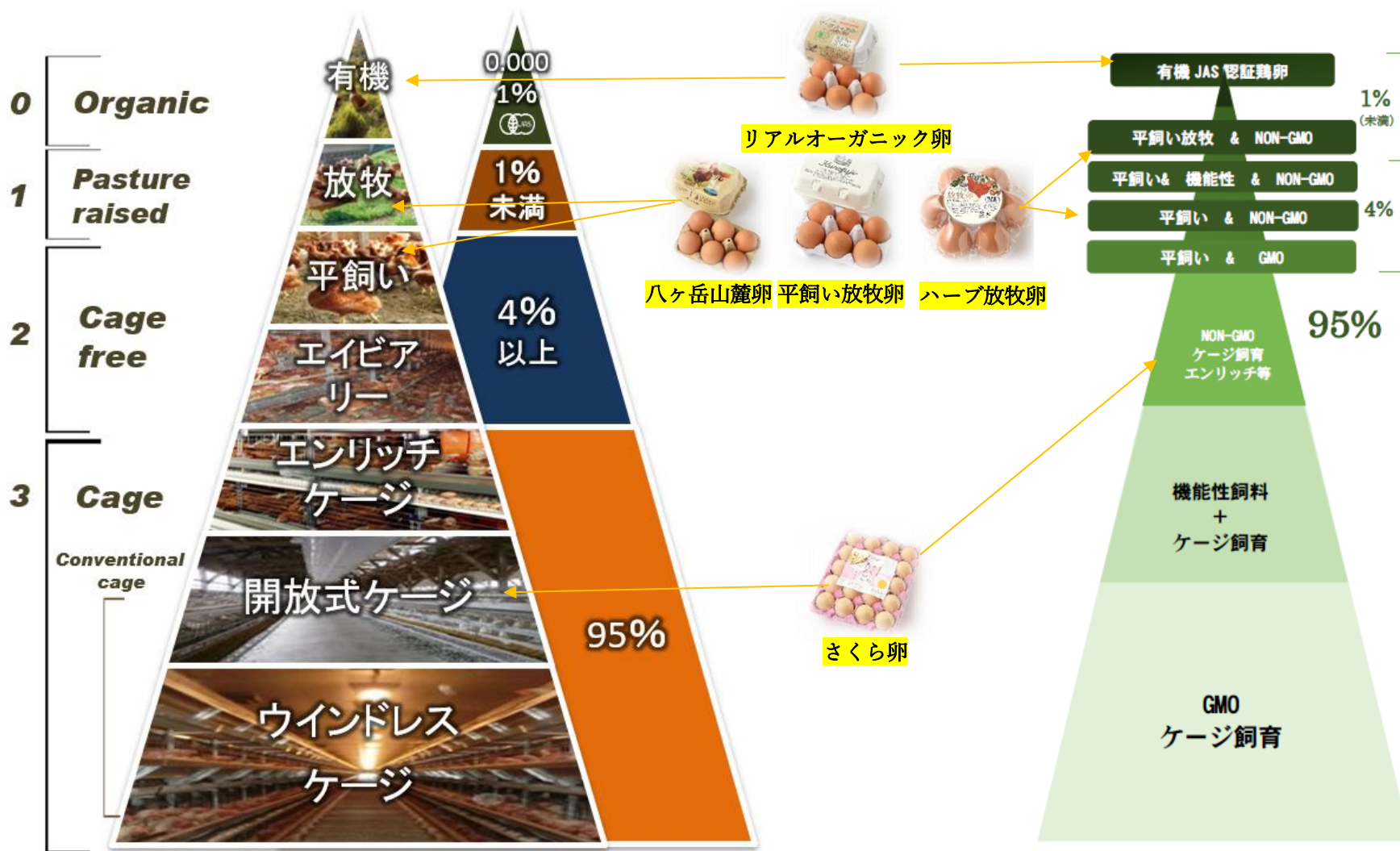
「八ヶ岳中央農業実践大学校」共同開
発で生産している卵です。
黒富士農場で実践している飼養技術や
BMW技術などを八ヶ岳エリアでも展
開し、放牧飼養で生産している卵です。



卵の種類	飼育形態	飼料	認証および特徴
リアルオーガニック卵	平飼い放牧	有機飼料	有機 J A S 認証
放牧卵	平飼い放牧	Non-Gmo	山梨県 3 E 認証
八ヶ岳山麓卵	平飼い放牧	Non-Gmo	教育機関での生産
さくら卵	高床式ケージ	Non-Gmo	国産鶏ゴトウさくら
ハーブ放牧卵	平飼い放牧	Non-Gmo + ハーブ添加	産学官共同開発



鶏卵市場と当社の卵



↑ 欧米の採卵鶏カテゴリー

国内の飼養方式と比率 ↑

↑ 黒富士農場の卵と生産比率

↑ 量販店などの価格設定指標

農業の様子

甲斐市山懐・標高1100m

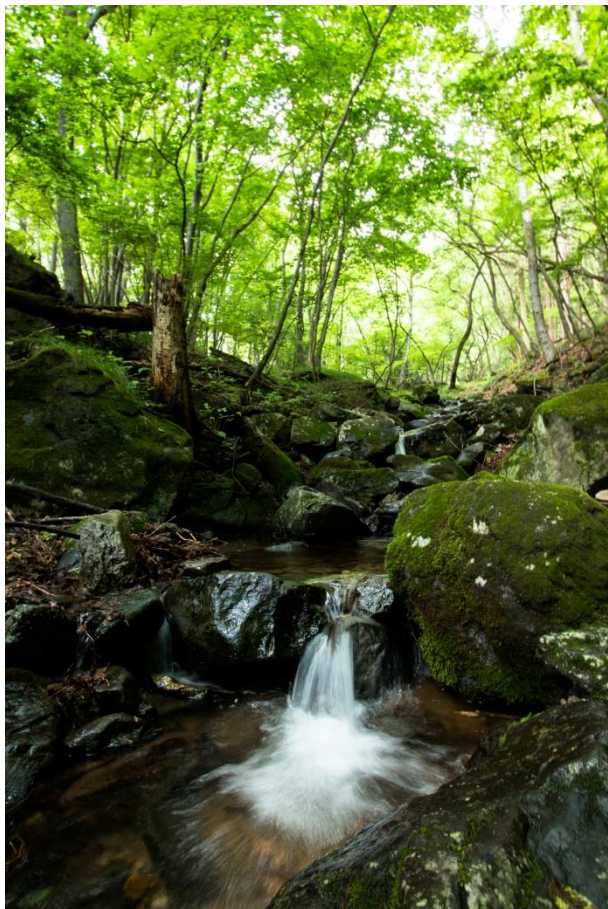
冬は寒いですが、夏は涼しく、鶏たちにとって最適な環境です。



農場の様子

湧き水の恩恵と生物多様性

黒富士農場の中心には湧き水が流れる川があります。鶏も人も、動物たちすべてに恩恵を与えています。



農場の様子

平飼い放牧とは？

舎内が平飼いできるという事以外にも、野外運動場にアクセスできること



養鶏豆知識

放牧＝自然循環と動物福祉

産業動物福祉を追求する上では、十分なスペースや遊び場が必要



農場の様子

「鶏舎は鶏の自宅」 ストレスのない環境を



農場の様子

BMW技術で鶏舎内衛生を保つ

鶏舎内はオールイン、オールアウトを行い、約1年3か月ほど毎に一回ずつ洗浄されます。逆に鶏のいる期間は敷料を取り換えません。その際に衛生環境が悪くなることを防ぐためにBMW技術を取り入れています。放線菌たっぷりのBM活性堆肥を鶏舎の床下に敷き詰めておくことで鶏舎内の敷料が糞尿を素早く分解し、匂いや病気、ハエの発生などを防ぎます。



地球に優しい「循環型畜産」

農場内で排泄される鶏糞は、完熟発酵させ再び鶏舎内に敷料として戻されます。また敷料として使用しきれない堆肥は、近隣の果樹農家に利用されたり、飼料用穀物を育てるために使用されます。

- 敷料
(戻し
堆肥)



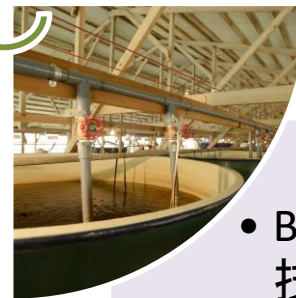
- 完熟
発酵



- 地域
循環



- BMW
技術



農場の様子

黒富士農場の有機飼料とは？

有機飼料→有機原料95%以上

有畜農家→有機飼料80~85%以上

穀類

トウモロコシと大豆が主原料

動物質性飼料

エキシンフリー魚粉(抗菌・殺菌剤不使用)

その他

炭酸カルシウム リン酸カルシウム 食塩 等



主要原料だけでは生命維持、産卵に必要な栄養素のビタミンやミネラル・アミノ酸が不足。劣化防止剤や促進剤を除いた飼料添加物は、飼料への栄養成分の補給に限っては利用可。
自家配合飼料に関しては、米ぬか、オカラ、海藻、小豆煮皮、カキガラ、クロレラを配合。非遺伝子組換えである事や生産履歴の取れた物だけを選定して使用。

有機飼料

非遺伝子組換え
エコフィード





取り組み

連携および養鶏先端技術の追求。そして普及へ



自然環境農法（BMW技術）



有機JAS認証取得



山梨大学との共同研究



三井農林との共同研究



やまなし自然塾



有機農業連絡会議



野の学校



ふるさと特産品



無農薬スーパーフード飼料栽培



有機・平飼い養鶏技術支援



エコフィード・ハーブ機能性研究



アニマルウェルフェア普及活動



山梨県アニマルウェルフェア認証



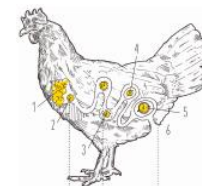
黒富士農場のSDGs貢献目標



HACCPを取り入れた衛生管理



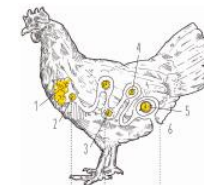
たまごの衛生管理（GPセンター）



たまごの魅力で地域を活性化

黒富士農場は山梨県内に3か所の直営店を運営しています。
農家の6次産業化が主流になってきた昨今、時代を先駆けて1995年に
始まりました。地域の方に支えられながら、ゆっくり時間をかけて
成長を続けてきました。消費だけでなく、交流の場となるように地
域に根差したお店作りを行っています。
卵だけでなく、素材を活かした加工品を作っています。
一つ一つの商品がたまご農家ならではの味の追求方法で商品開発を
行っており、卵本来の持つ特徴を活かしています。





第一次産業を再構築する

黒富士農場では、今後生産規模の拡大は行わずに農場の生産技術の向上や、機能性および付加価値を高めていくことに注力していきます。私達の社会的意義を考えたとき、平飼いの後進育成と有機市場の活性化を使命と捉えています。

私達は有機の取り組みを通じて多くの大切な事を学びました。それは有機食品がいかに安全であるかという事だけではなく、人々の食生活の中に環境問題や健康問題があり、それらの問題の根本には「食」に対する知識の不足や、教育面においても社会構造から生じる一定の偏りがあるという事です。

人々が豊かになってきた昨今においては、「安くて美味しいモノ」という一般的な食の価値基準だけでなく、エシカルな価値観をもった消費が行われ、環境や生物が保全される世の中になるよう私達は貢献していきます。

